ほほえみ

第36号　2016年4月発行

独立行政法人 国立病院機構
七尾病院
〒926-8531　石川県七尾市松百町八部3番地の1
TEL（0767）53-1890（代）
FAX（0767）53-5771
ホームページ　http://www.nanao-hosp.jp/

「朱鷺の舞」橋本義則（七尾美術作家協会会員）

私達の信条

私達は、患者さんにいつも愛と思いやりの心で接します。
私達は、国の担うべき医療を提供し、地域に親しまれる病院を目指します。
私達は、質の高い医療を提供し続けていくために日々研鑽いたします。
私達は、医療の進歩に貢献するために臨床研究を推進します。
私達は、互いに協力し、働きがいのある明るい職場作りに努めます。

目次

過疎地、七尾、能登こそ 子どもを産み育てやすく・・2
東京ディズニーリゾート・アンバサダーの訪問・・3
リハビリテーション科 作業療法部門の季節の取り組み・・4
結核臨床研修会報告・・・・・・・・・・・5

過疎地、七尾、能登こそ子どもを産み育てやすく

小児科　泉　　達　郎

七尾市生まれ、七尾東部中学校、七尾高校卒業後、三重：三重県立大学、東京：東京女子医大、東大、国立精神神経研究所、NY,USA:Albert Einstein医大、大分：大分大学と移動し、定年退任後、ほぼ50年ぶりに故郷に戻り、地域の小児科医、小児神経科医をしています。七尾、能登半島は大伴家持の万葉集にも記載があり、長谷川等伯生誕の地、七尾城址，和倉温泉のある歴史ある街ですが、少子高齢過疎化の波は大きく、2007年３月能登半島地震によって、能登半島全体で更に加速されています。これは、2011年３月東日本大震災、福島原発事故に伴う被災地よりの人口流出が、従来、少子高齢過疎化であった地域が、更に加速しているのと同様の動きでもあります。

故郷に戻り、その中で生活をすると、街の衰退、商店街、造り酒屋の減少、小中学校の廃校と統合、医院の減少と廃院跡に故郷の衰退を痛感させられます。まさに、地域の再生、存続自体が危うい状況になっているように思います。

当七尾病院は長年、常勤小児科、小児神経専門医は不在で、七尾だけではなく、能登全体で、小児科医の不足は深刻です。子どもはご両親の愛情の下、満期在胎 40 週、3kg、50㎝で生まれ、元気に泣き、母乳を吸い、大きくなり（成長）、たくましく二次性徴し（成熟）、賢く（発達）なっていきます。途中、風邪をひき、熱を出し、咳や下痢、けいれん、言葉の遅れ、学校の成績などに悩まされる事があります。七尾病院小児科では、成長や成熟障害、発達障害やけいれんなどに関係する障害児医療、小児神経疾患を専門に担当しています。身体が大きくならない、筋肉が弱く、力がなく、なかなか歩かない、目が合わない、言葉が出ない、こだわりが強い、落ち着きがない、けいれんやてんかん発作がある、などの子どもの神経疾患を専門的に対応しています。

重症心身障害児（者）医療や小児神経、発達障害医療の低下は街における子どもの保健活動にも影響を及ぼし、“子どもを産み育てやすい街”の形成に大きな影響を及ぼします。生まれた子どもが知的障害、運動障害、けいれんを呈すると、治療、リハビリのために医療施設の揃う都市部の大病院、専門病院を受診し、通院し、更に、家族全体で、その地域に移動して行く事が少なくない事に気付かされます。ここ七尾、能登が“本当に、子どもを産み育てやすい街”、“若い夫婦が住み生活できる街”であるという認識と安心感を形成するためには、医療は社会の最も基本的な“infrastructure”であり、その中でも小児医療、保健活動の整備、発達障害児医療とその早期発見と支援のための健診活動の整備、充実が必須であり、七尾、能登の人口流出の抑制、出生率の上昇に少しでも貢献したいと考えています。

リハビリテーション科 作業療法部門の季節の取り組み

リハビリテーション科　潤　株　康　博

こんにちは、リハビリテーション科です。リハビリテーション科では作業療法部門を中心に、季節ごとのイベントを行っています。

年末年始は『七尾リハビリ神社』を建立し、多数の入院患者さまや外来患者さまの初詣の場としてご利用いただきました。おみくじや本坪鈴、賽銭箱なども手作りし、皆さまにより本格的な初詣を体験していただけたのではないかと思っています。実際に初詣に来られた患者さまからは、「十数年ぶりに初詣をした」と喜びの声もいただきました。

節分は、大きな鬼のお面を作製し、お手玉や紙を丸めたボールを豆まきに見立てて実際に鬼に向かって投げていただきました。鬼のお面にボールを当てられない方もいらっしゃいましたが、その分皆さまが一生懸命、夢中になって豆まきを楽しんでいるようでした。普段、表情の変化が少ない方や口数の少ない方も豆まきをしている中で、笑顔になったり、言葉が出たりと普段とは違う一面が見られました。

当院は長期入院されている患者さまの割合が多く、自宅での生活と比較して季節感を感じ辛い方も多いと思います。その中で、入院患者さまが季節の移り変わりをより感じられ、入院生活の中に少しでも楽しみを見い出せるように季節に合わせたイベントを行っています。平成28年度は月ごとに季節に合わせたイベントを行う予定ですので、患者さまはもちろん、ご家族さまやお見舞いに来られた方もお気軽にお越しいただければと思っています。

結核臨床研修会報告

医療社会事業専門員　上　田　竜　也

当院では平成13年度から年１回石川県の各地で、結核医療における地域の医療機関相互の連携強化を図り、結核医療の向上に努めることを目的として結核臨床研修会を開催しています。平成27年４月に、当院が石川県における結核診療の中核病院に指定されたことに伴い、本研修会は年２回にグレードアップしました。

第１回は平成27年11月８日に羽咋市のコスモアイル羽咋にて、第２回は平成28年2月21日に小松市民病院の研修室をお借りして開催しました。

第１回では能登中部保険福祉センター所長 南陸男先生を、第２回では南加賀保健福祉センター所長 沼田直子先生、山崎景子保健師をお招きし、各保健所管内での結核患者の発生状況についてご講演いただきました。能登中部では新規登録患者の中では高齢者と若年者の外国籍者が多いため外国籍者を多く雇用する企業での健康教室を積極的に実施していること、南加賀では抗結核薬の効きにくい薬剤耐性菌患者が毎年発生していること、薬剤耐性菌患者のうち20%程度を外国籍者が占めていることなど述べられました。

当院からは堂下隆内科医師から「結核診断のポイントについて」と題して結核菌関連検査から実際の症例に基づく診断のコツの説明がありました。土島秀次外科医長から「結核症例の実際について」と題して５つの症例提示を行いました。また、「良質な喀痰の採取法とその評価について」では、多和田行男臨床検査技師長が、上手な痰の採取方法と喀痰の品質評価の重要性について解説しました。「結核発症時の施設内対応と当院における看護について」では、石倉礼子結核看護院内認定看護師から感染防止対策、抗結核薬について、DOTSカンファレンスと退院後の対応、精神的援助にいたる流れの具体的な説明がありました。最後の「施設内での結核患者発症時の接触者調査について」では、中川かつ枝感染管理認定看護師が、結核患者の感染性の有無とその強さを判断し接触者健診の対象者を選択していくことをわかりやすく説明しました。

研修後のアンケートは今年も好評で、「多職種からの講義が聞けて勉強になった」、「症例提示でCT等の画像を見ることができ理解が深まった」などの感想をいただきました。また今後の研修内容の希望では「診療所や医院でどこまで検査をして結核専門病院へ紹介したらよいか教えてほしい」など、連携を取っていくうえで重要なご意見をいただきました。

平成28年度も年２回の結核臨床研修会を開催予定です、今後も中核病院として様々な情報を発信していきたいと思います。

看護師募集！

入院から在宅までの看護を一緒に行いましょう！

＊しばらく医療の現場から離れていた方への職場復帰を支援するための研修を行っています。ご利用下さい！

問い合わせ先
独立行政法人国立病院機構七尾病院　看護課
（0767）53－1890　（内線1104）

外来診療担当医表

外来受付時間　8:30～16:00
診療時間　8:30～17:00

	月	火	水	木	金
内科	横地	橋井	陳	藤村 森永	堂下
外科				土島	
呼吸器科	藤村 （PM）	藤村 （PM）	大谷 （PM）	藤村 （AM）	藤村 （AM:初診のみ） 堂下
ペインクリニック			松島 （AM）		
神経内科	横地	横地	横地	森永	森永
小児科	押切/泉 交代医	押切 泉	押切/泉 岡田1回/月	押切 泉	押切/泉 松島
消化器科	陳	陳	陳	陳	陳
皮膚科	楠木 （AM）	藤村啓 10:30～15:00	藤村啓 （AM）	多賀 （AM）	坂田 （AM）
循環器科					上野 （AM）

※小児期の予防接種はじめ各種予防接種を行なっております。

病院概要

■医療法病床　240床
（一般病床/190床、結核病床50床）

■標榜診療科
内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、ペインクリニック内科、外科、小児科、皮膚科、リハビリテーション科

案内図

JR七尾線「七尾駅」下車
→北鉄バス【和倉温泉行】にて
（3.7km./約15分）七尾病院前下車
→徒歩5分（500m.）

※平日の午前中は坂下まで病院バスの送迎あり

編集後記

水栽培で育てたヒヤシンスの球根を地植えしてから数年、もう出てこないかと思っていましたが、今年は綺麗な花が咲きました。

医療社会事業専門員　上田　竜也